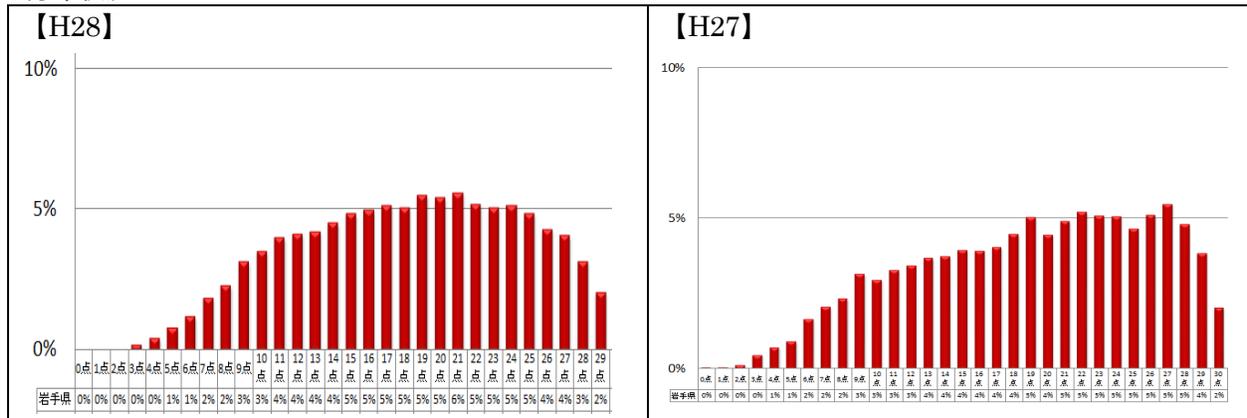


授業改善の手引 中学校第 1 学年英語

1 調査結果

(1) 分布状況



- 問題数は昨年度より 1 問少ない 29 問。正答数の最頻値は 21 問、平均正答数は 18 問です。昨年度の分布と比較すると、ほぼ同じ傾向となっています。(正答数の最頻値：該当する生徒数の最も多い正答数)

(2) 1 年生 Can-Do リストの正答率

領 域		1 年生到達目標 (CAN-DO LIST)		対応する問題番号	平均正答率 (H27) (H28)	
理解する力	聞くこと	①	日常生活の身近な単語を正しく聞き取ることができる。	—	—	—
		②	英語のあいさつや簡単な Classroom English など、英語の基本的な慣用表現を、理解することができる。	1 (1) (2) (3)	77.2	84.0
		③	簡単な質問や指示、依頼や許可などを聞き、その場面や状況、話し手の意向を理解することができる。	—	—	—
		④	自然な口調で話される短い英語を聞きその内容を正しく理解することができる。	2 (1) (2) 3 (1) (2)	89.4	84.2
	読むこと	①	日常生活の身近な単語や簡単な文を理解することができる。	8 (1)	72.8	72.9
		②	身近にある簡単な掲示や標識等を理解することができる。	6	95.1	51.6
		③	メモやタイトルなどから必要な情報等を理解することができる。	9 (1) (2)	60.2	78.5
		④	まとまった内容の英文を読んで、必要な情報を読み取ることができる。	7, 8 (2)	69.7	38.3
表現する力	書くこと	①	日常生活の身近な単語を書くことができる。	4 (1) (2) (3) (4)	53.5	64.4
		②	語と語の区切りに注意しながら、英語の正しい語順で書くことができる。	10 (1) (2) 12 (1) (2) (3) 13 (1)	43.0	49.5
		③	自分の考えや気持ちなどが読み手に正しく伝わるように、文と文のつながりに注意して、簡単な英文で書くことができる。	13 (2)	45.4	47.2
文 字 ・ 語 彙				5	63.4	67.9
文 法 事 項				11 (1) (2) (3) (4)	49.2	49.3

(3) 結果概要

昨年度よりもさらに語彙や英文の量を増やし、実際の言語活動を想定した問題を多く出題しています。誤答分析から、特に「書くこと」「読むこと」において中 2 の県学調と同様の傾向が既に現れてきています。授業中の英語使用がインプットのみに偏らないよう、言語活動でコミュニケーション場面や言語の働きを意識させる手立てをしながら指導する必要があります。

- 「書くこと」においては、大問 13 のまとまった英文を書く問題で、正答率が 47.2% と昨年度を上回りました。授業での言語活動に「書く」活動がしっかりと位置付けられてきていることの成果と捉えます。
- △ 「読むこと」については、大問 9 において 78.5% の生徒が「催し物」についてのチラシの情報を正しく読み取ることができています。一方で、比較的長い対話を扱った大問 7 において、登場するライオンの数を 4 頭 (※正しくは 5 頭) とした解答が多く正答率が 18.7% となりました。ある程度の長さのある英文を短時間で最後まで読み、情報を正しく把握するといった活動に慣れていく必要があると考えられます。

小問別正答率

問題番号			調査問題のねらい	CAN-DOリストとの対応	備考	正答率	選 択 No. (%)						
大問	小問	通し番号					1	2	3	4	5	6	0
							選択	選択	選択	選択	誤答	正答	無回答
1	(1)	1	短い対話を聞き取り、適切なイラストを選択できる。(場所: by)	聞くこと②		74	1	2	23	74	0	0	
	(2)	2	短い対話を聞き取り、適切なイラストを選択できる。(数: fifty)			89	4	2	5	89	0	0	
	(3)	3	短い対話を聞き取り、適切なイラストを選択できる。(日付: June)			90	2	1	90	7	0	0	
2	(1)	4	短い対話を聞きとり、適切なイラストを選択できる。(like, don't like)	聞くこと④		98	98	1	0	0	0	0	
	(2)	5	短い対話を聞きとり、適切なイラストを選択できる。(場所: by, on)			90	2	90	7	0	0	0	
3	(1)	6	短い英文を聞き取り、適切なイラストを選択できる。(場所: on, under)	聞くこと④		50	34	5	10	50	0	0	
	(2)	7	短い英文を聞き取り、適切なイラストを選択できる。(天気: rainy, cloudy)			98	1	1	1	98	0	0	
4	(1)	8	基本的な動詞を聞き取り、正しく書くことができる。(come)	書くこと①		76					18	76	6
	(2)	9	基本的な動詞を聞き取り、正しく書くことができる。(read)			55					33	55	12
	(3)	10	基本的な動詞を聞き取り、正しく書くことができる。(want)			38					40	38	22
	(4)	11	基本的な動詞を聞き取り、正しく書くことができる。(play)			88					8	88	3
5		12	文の書き方(語と語の区切り、「」[」の符号、文頭の大文字)にしたがって、文を正しく書くことができる。	文字・語彙③	経年	68					29	68	3
6		13	簡単な標識を正しく理解することができる。	読むこと②		52	1	3	52	44	1	0	
7		14	対話文の内容を正しく読み取り、その内容に合うイラストを選択できる。	読むこと④		19	17	57	19	6	1	1	
8	(1)	15	対話の流れに沿った文同士の関係(つながり)を理解することができる。	読むこと①		73	5	73	12	8	1	1	
	(2)	16	対話文の内容を正しく読み取り、その内容に合う正しい答えを選択できる。	読むこと④	経年	58	58	12	9	20	0	1	
9	(1)	17	英語の広告や案内などから必要な情報を探し出して読み取ることができる。	読むこと③		80	3	14	3	80	0	0	
	(2)	18	英語の広告や案内などから必要な情報を探し出して読み取ることができる。			77	13	8	77	2	0	0	
10	(1)	19	一般動詞の肯定文を正しく書くことができる。(listen to)	書くこと②		54					45	54	1
	(2)	20	一般動詞の疑問文を正しく書くことができる。(Do you...?)			83					16	83	1
11	(1)	21	名詞(dog)の複数形を正しく書くことができる。	文法事項④	経年	61					25	61	13
	(2)	22	主語が3人称の場合の助動詞(does)を正しく書くことができる。	文法事項②		37					55	37	8
	(3)	23	主語(～は/が)のときの代名詞を正しく書くことができる。	文法事項④		63					25	63	12
	(4)	24	「どのように」と手段をたずねるときの疑問詞(How)を正しく書くことができる。	文法事項②	経年	36					51	36	13
12	(1)	25	場面に応じた英文を書くことができる。(誰なのか尋ねる場面)	書くこと②		40					45	40	15
	(2)	26	場面に応じた英文を書くことができる。(許可を求める場面)			40					44	40	16
	(3)	27	場面に応じた英文を書くことができる。(どちらか選択を求める場面)			23					54	23	23
13	(1)	28	人を紹介する文を書くことができる。	書くこと②	経年活用	58					28	58	14
	(2)	29	紹介する人の特徴やその人に対する気持ちについて、15語以上で書くことができる。	書くこと③	経年活用	47					37	47	15
平均正答率						63							

岩手県中学1年生 CAN-DOリスト (岩手県中学1年生英語確認調査用)

領 域		1年生到達目標(CAN-DO LIST)	
理解する力	聞くこと	①	日常生活の身近な単語を正しく聞き取ることができる。
		②	英語のあいさつや簡単なClassroom Englishなど、英語の基本的な慣用表現を理解することができる。
		③	簡単な質問や指示、依頼や許可などを聞き、その場面や状況、話し手の意向を理解することができる。
		④	自然な口調で話される短い英語を聞き、その内容を正しく理解することができる。 ※別紙参照
	読むこと	①	日常生活の身近な単語や簡単な文を理解することができる。
		②	身近にある簡単な掲示や標識等を理解することができる。
		③	メモやタイトルなどから必要な情報を読み取ることができる。
		④	まとまった内容の英文を読んで、必要な情報を読み取ることができる。 ※別紙参照
表現する力	話すこと	⑤	登場人物の心情や意味・内容が表現されるように音読することができる。
		①	日常的なあいさつや、あいさつへの応答をすることができる。
		②	人を誘ったり、依頼したり、指示したりすることができる。
		③	身近な話題について、簡単な質問をしたり、質問に答えたりすることができる。
		④	自分自身や身近な人々について、考えや気持ち、事実などを、相手意識をもって簡単な英語で伝えることができる。
	書くこと	⑤	強勢、イントネーション、区切りなど基本的な英語の音声の特徴をとらえ、正しく発音することができる。
		①	日常生活の身近な単語を書くことができる。
		②	語と語の区切りに注意しながら、英語の正しい語順で書くことができる。
		③	自分の考えや気持ちなどが読み手に正しく伝わるように、文と文のつながりに注意して、簡単な英文で書くことができる。(例)自分自身、家族・友達等の身近な人、お気に入りのものについてなど。 ※別紙参照

1年生到達目標(CAN-DO LIST)を支える言語材料等

言語材料等	音声	①	標準的な英語の発音における母音や子音の音
		②	語と語の連結による音変化
		③	基本的な強勢やイントネーション、区切り
	文字・語彙	①	アルファベットの活字体の大文字・小文字
		②	基本的な語句 (「岩手県の中学生のための英語語彙リスト(G単)」や「教科書」等の語句)
		③	基本的な符号や語の区切りなどの英語の表記法
		④	よく使われる連語や日常的な慣用表現
	文法事項	①	単文、肯定及び否定の平叙文、肯定及び否定の命令文 (現在形、3単現のs、canを含む文) (出題範囲には含まないが1年生で習う事項: 現在進行形、一般動詞の過去形)
		②	疑問文のうち、動詞で始まるもの、助動詞で始まるもの(Do, Does, Can)、 疑問詞(what, how, when, where, which, who, whose)で始まるもの (出題範囲には含まないが1年生で習う事項: 助動詞 Did、疑問詞 why)
		③	文構造 「主語+動詞」「主語+動詞(be動詞)+補語(名詞/形容詞)」「 主語+動詞+目的語(名詞(句))」
		④	代名詞(人称・指示・疑問・数量を表すもの)、前置詞(場所・時・手段・状況)、名詞の複数形

言語の使用場面の例	①	特有の表現がよく使われる場面	: 「あいさつ・自己紹介」
	②	生徒の身近な暮らしに関わる場面	: 「家庭での生活・学校での学習や活動」
言語の働きの例	①	コミュニケーションを円滑にする	: 「呼びかける・相づちを打つ、聞き直す、繰り返す」など
	②	気持ちを伝える	: 「礼を言う・褒める・謝る・感謝する」など
	③	情報を伝える	: 「説明する・発表する・描写する」
	④	考えや意図を伝える	: 「申し出る・承諾する・断る」
	⑤	相手の行動を促す	: 「質問する・依頼する」

2 指導のポイント

- (1) ある程度まとまった分量の英文を読み、全体として何が書かれているのか理解できるようにさせましょう。
また、英文の流れを意識し、前後関係から文章構成を捉えさせましょう。

ア 問題の概要

<出題の趣旨>比較的長めの対話文を読み、短時間で全文の内容を読み取ることができるかどうかをみる問題

- 8 映画俳優の Jonny Brown (ジョニー・ブラウン) が来日し、記者会見を行っています。記者会見の様子の英文を読み、以下の(1)、(2)の問いに答えなさい。

Interviewer: Hello, Jonny. The *title of your new movie is “*Space Chef”.
It is about the first chef on the moon.

Jonny Brown: Yes.

Interviewer: In this movie, you cook dinner for *astronauts in the restaurant
on the moon. But do you cook for your family in your *real life?

Jonny Brown: I'm not good at cooking, but I sometimes make dinner for my family.

Interviewer: ①

Jonny Brown: ②

Interviewer: ③

Jonny Brown: I can make *temaki-sushi*.

Interviewer: Oh, I see. It's easy and *delicious. Message to Japanese *fans, please.

Jonny Brown: Please watch this movie with your friends or families. You can enjoy and like it. (90語)



- (1) 文中の空欄①②③に当てはまる英文の組み合わせとして正しいものを、次の1~4の中から1つ選び、その番号を書きなさい。

① ② ③ ① ② ③ ① ② ③ ① ② ③
1 アイ→ウ 2 ア→ウイ 3 イ→ア→ウ 4 ウ→イ→ア

ア Wow, that's wonderful! What food do you make for them?
イ Really? Japanese food is not easy. What can you make?
ウ I make Japanese food.

<正答> 2 (72.9%)

<誤答> 1 (5.5%), 3 (12.4%), 4 (7.8%)

- (2) ジョニーの出演する映画について正しく述べているものを、次の1~4の中から1つ選び、その番号を書きなさい。

- 1 映画の中でジョニーは月で初めてのシェフの役を演じている。
- 2 映画の中でジョニーは宇宙飛行士たちに昼食を作っている。
- 3 映画の中のジョニーは、あまり料理が得意ではない。
- 4 映画の中でジョニーは、日本食を作っている。

<正答> 1 (58.0%)

<誤答> 2 (12.4%), 3 (8.7%), 4 (19.6%)

イ 誤答分析

- (7) 意味内容から前後関係を捉え、その文脈に応じた表現の形式や文章のつながりを考えて読むことの課題。

直前の英文とのつながりだけから判断し、ア・イ・ウの3つの英文とその前後の英文とのつながりまで考えることができなかつたことが考えられます。また、選択肢の英文にある代名詞 *them* が何であるか捉えられなかつたこともその一因と推察されます。

- (4) ある程度まとまった分量の英文を読み、全体として何が書かれているのか短時間で概要を捉えることの課題

本文全体を読まずに問題文だけで判断している可能性があります。本文の構成が、前半は「映画の内容」について、後半は「日常生活」について展開されていることに気付かなかつた可能性があります。

ウ 改善の視点・・・まとまった英文を目的に応じて読むことができるように言語活動を工夫する。

- (7) 1年生段階から、場面設定が明確な、ある程度まとまった分量の英文に慣れさせる。



中学校卒業時のCAN-DOリスト(読むこと)でゴールとして設定した英文量から逆算し、1年生段階からまとまった分量の英文に慣れさせることが必要です。1年生2学期までの言語材料だけでも、この問題のような長めの対話文を作成することができます。インタビューのように場面が明確な英文を与え、挿絵などを参考にしながら一定時間内に概要を把握する力を身に付けさせましょう。

(1) 行間作文で教科書の内容を広げる

Mother: Can anyone answer the phone?
I can't answer it now.
Daughter: I'm sorry, I can't. I'm changing my clothes.
Mother: Sam.
Son: Sorry, I'm busy now. I'm drying my hair.
Mother: Jim can you answer the phone?
Father: Sorry, I can't, Aiko. I'm brushing my teeth.
Mother: ?
家族A
Mother: Oh, no!
(Sunshine 1 P91 本文より)



教科書に登場していない家族との対話を想像し、空欄に英語をいれましょう。

弟がいることにして考えようかな。



「テレビを見ているから忙しい。」と断ろうかな。

最後に母親が“Oh, no!”と話していることから、断る理由を考えなければならぬという場面であることを意識させることがポイントです。
このように、会話の流れの中で何を表現すればよいかを考えさせると、場面や目的に応じた英文を考える習慣が身に付いていきます。新出事項と既習事項を選んで表現させることも大切です。



(2) 生徒のアイデアをいかして教科書を再教材化する

Mother: Can anyone answer the phone?
I can't answer it now.
Daughter: I'm sorry, I can't. I'm changing my clothes.
Mother: Sam.
Son A: Sorry, I'm busy now. I'm drying my hair.
Mother: Jim can you answer the phone?
Father: Sorry, I can't, Aiko. I'm brushing my teeth.
Mother: Bob, are you free now?
Son B: I'm very busy. I'm watching TV now.
Mother: Oh, no! A
Son B: OK, mom. I'm sorry...
【問い】 A にあてはまることばを考えて書きましょう。

テレビを見ているくらいなら電話に出られるよね。



だったら、“You are not busy.”や“Please answer it.”、“You can answer it.”などが使えるね。

今まで教科書に出てきた表現で使えるものを活用して、場面に合う英文を考えましょう。



自分たちで考えたことが次の授業にいかされることは嬉しいものです。このことが、学習の意欲付けや自己肯定感の醸成にもつながります。
「読む」→「書く」→「読み直す」のように、1つの題材をリサイクル（再教材化）しながら読む量を増やし、表現力と理解力を高めていきましょう。
上記の活用例以外にも、作成したテキストを音読指導や読解指導、宿題等で活用しながら、たくさん読む経験を積みませましょう。



(3) 音読や読解指導・宿題等で再利用する

(2) 自己表現するための基礎基本を定着させるために、「読むこと」を「書くこと」につなげる指導を大切にしましょう。

ア 問題の概要

13 授業参観日の英語の授業で「あなたの好きな人物」を英語で紹介することになりました。あなたならどんなスピーチ原稿を書きますか。その原稿を次の条件にしたがって英語で書きなさい。

- (1) 誰のことを紹介するのかわかるように書くこと。
- (2) その人物の特徴やあなたのその人物に対する気持ちを書くこと。
- (3) 全体で、15語以上の文で書くこと。(符号は語数に含めない。)
何文書いてもかまわないこと。

(Hello. と Thank you. は語数に含めない。)

〈正答〉 57.6%
〈誤答〉 28.4% 〈誤答〉 14.0%

〈正答〉 47.2%
〈誤答〉 37.0% 〈誤答〉 15.4%

My Favorite Person

Hello, everyone.

紹介する人物の写真または絵



Thank you.

イ 誤答分析

昨年度に比べて全体的に英文を書く量が増えてきました。一方で、3文以内で書いた英文にミスがあるために採点基準を満たさないケースも多く見られました。

ウ 改善の視点・・・教科書本文の意味理解でとどまるのではなく、Speaking や Writing などの自己表現につなげる指導を構想しましょう。

教科書本文の情報を、少し形を変えて表現させるなどことで既習事項の定着を図りましょう。

- ①リテリング：本文内容を自分の言葉で説明し直す活動
- ②要 約：説明文や物語文の大事なポイントを絞ってまとめる活動
- ③インフォर्मーショントランスファー：文中の人物になりきって、ダイアログをモノログにして Speaking や Writing を行うなどの、情報を転移する活動

授業アイデア例2

【教科書の本文の情報をもとに、紹介文や日記を書く例】



シャーロックホームズについて本文からわかることを英文で説明しましょう。

Sherlock Homes is a detective.
He is very smart but he doesn't work alone. Dr. Watson helps him.
He doesn't live on Baker Street now, but his pictures are on the wall of Baker Street station.
The name of Edogawa Conan comes from him.
Matt likes him very much.
(Sunshine 1 P61~65 より)

今度ほかの誰かを紹介するときに役立てたいです。



マイクと由紀の対話からわかったことをもとに、Mike になったつもりで日記を書きましょう。

I enjoyed my stay in America.
I visited a lot of museums. I visited the history museum, the art museum and the space museum. I really liked it. I saw Apollo 11 there. I didn't visit the White House.
(Sunshine 1 P103 より)

対話の中でマイクが聞かれたことを日記の情報に加えることがポイントだね。



新たに言語活動のためのテキストを自作するのは大変です。すでにある教科書を活用しながら、疑問文を平叙文に書き換えたり、人称や時制を変えたりする活動を入れ込むことで、基礎基本の定着を図ることができます。